

# 千代田区子ども読書調査報告書

## 概要版

平成29年3月

千代田区

# 内 容

第一章 調査の概要	89
1. 調査目的	89
2. 調査対象及び調査方法等	89
3. 回収結果	89
4. 報告書の見方	89
第二章 調査結果	90
1. 対象者の属性	90
(1) 学年・性別	90
(2) 学校	90
(3) 兄弟の有無	90
2. 読書について	90
(1) 読書の好き嫌い	90
(2) 読書の好き嫌い（昨年度比較）	91
(3) 読んでいる本の分野	92
(4) 本を読む理由	94
(5) 本を読む頻度	95
(6) 本を読む頻度（昨年度比較）	97
(7) 前の月（10月）に読んだ冊数	98
(8) 前の月（10月）に読んだ冊数（昨年度比較）	99
(9) 本を読まない理由	100
(10) 読みたい本の入手方法	101
(11) 本の選び方	102
(12) 学校図書館の利用頻度	103
(13) 学校図書館の利用頻度（昨年度比較）	104
(14) 地域図書館の利用頻度	105
(15) 地域図書館の利用頻度（昨年度比較）	106
(16) 参加したことがある行事	107
第三章 調査結果より	108

# 第一章 調査の概要

## 1. 調査目的

千代田区立小学校・中学校に通う子どもの読書の状況や変化を把握し、今後の読書活動推進に関する施策に活用することを目的とする。また、調査で把握した読書状況を公表することで、読書に関する子どもたちとそれを取りまく大人たちの関心を高め、読書推進につなげるものである。

## 2. 調査対象及び調査方法等

調査対象	千代田区立小学校、中学校、中等教育学校（前期課程）の児童・生徒
抽出法	全校各学年1クラス
調査方法	小学校、中学校、中等教育学校（前期課程）における配布・回収
調査時期	平成28年11月1日～平成28年11月21日

## 3. 回収結果

	回収票数（回収率）
小学校1年生	201（92%）
小学校2年生	198（93%）
小学校3年生	223（99%）
小学校4年生	212（97%）
小学校5年生	240（95%）
小学校6年生	198（94%）
合計	1,272（95%）

	回収票数（回収率）
中学校1年生	98（99%）
中学校2年生	102（97%）
中学校3年生	96（93%）
合計	296（97%）

## 4. 報告書の見方

- 調査結果の数値は、回答率（%：パーセント）で表示している。母数はその質問項目に該当する回答者の総数であり、その数はnで示している。
- nが30未満の結果については、サンプル数が少ないため、参考値扱いとなる。
- %の数値は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示している。このため各回答の数値の合計が100%とならない場合がある。
- 回答は、単数回答（回答は1つ）の場合と複数回答（回答はいくつでも）の場合とがある。複数回答の間の場合には、その回答割合（%）の合計は100%を超えることがある。
- TOTALと比較して統計的に有意な差（有意水準5%）を中心にコメントを記載している。
- 図表として示したものの中には「無回答者」を省略した部分があるため、区分ごとの実数（nの値）の合計が全体の標本数と一致しないことがある。

■ 検定・ポイント差情報	
比率の差の検定 対TOTAL行	有意水準5%で高い 有意水準5%で低い

## 第二章 調査結果

### 1. 対象者の属性

#### (1) 学年・性別

小学生、中学生とも、性別はほぼ1：1であった。小学生は各学年約200名、中学生は各学年約100名と、学年の間に大きな差は見られなかった。

#### (2) 学校

小学生は8校から198～240名、中学生は3校から96～102名の回答が得られ、学校間に大きな差は見られなかった。

#### (3) 兄弟の有無

小学生、中学生とも、「兄弟（姉妹）がいる」は7割強となっている。

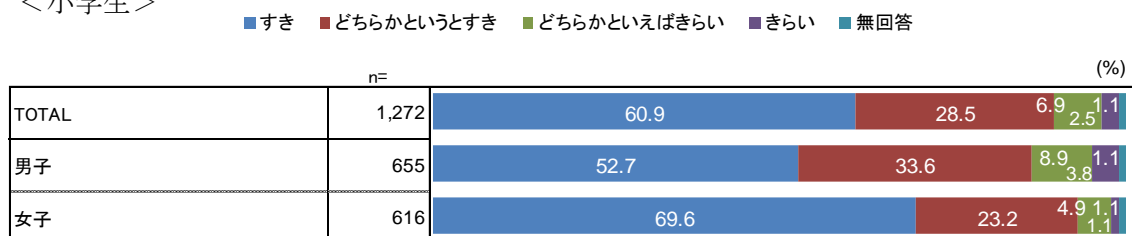
### 2. 読書について

#### (1) 読書の好き嫌い

小学生では、「好き」が最も高くなっている。

「好き」「どちらかというとき」を合わせた『好き』は、男子は8割を超え、女子では9割となっている。

<小学生>

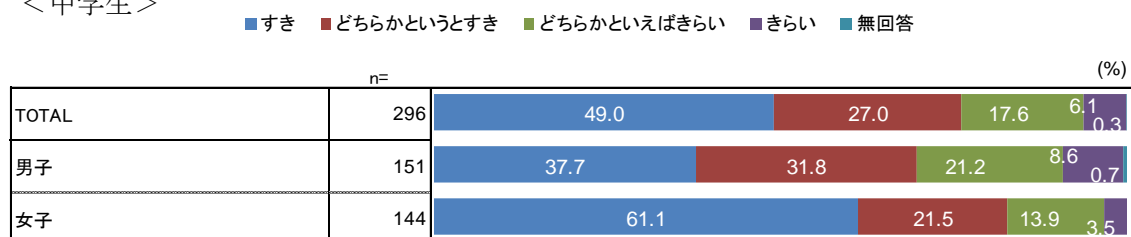


※性別無回答は非表示

中学生でも「好き」が最も高くなっている。

「好き」「どちらかというとき」を合わせた『好き』は、男子は約7割、女子では8割となっている。

<中学生>



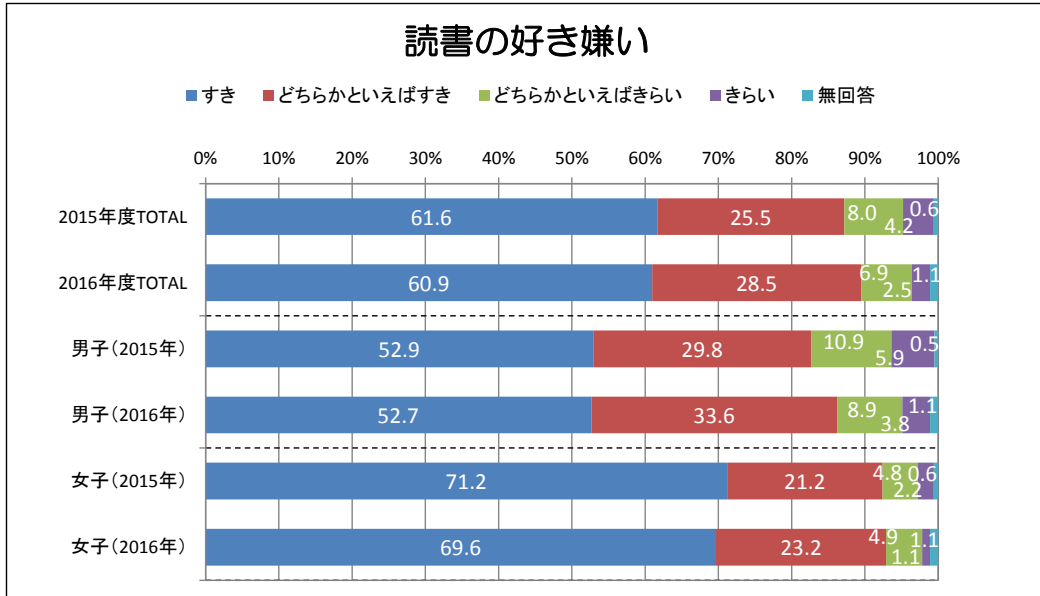
※性別無回答は非表示

(2) 読書の好き嫌い (昨年度比較)

昨年度と比較すると、小学生では大きな差はない。

「好き」「どちらかというとき」を合わせた『好き』の割合は、昨年度に比べ2.3ポイント上昇した。

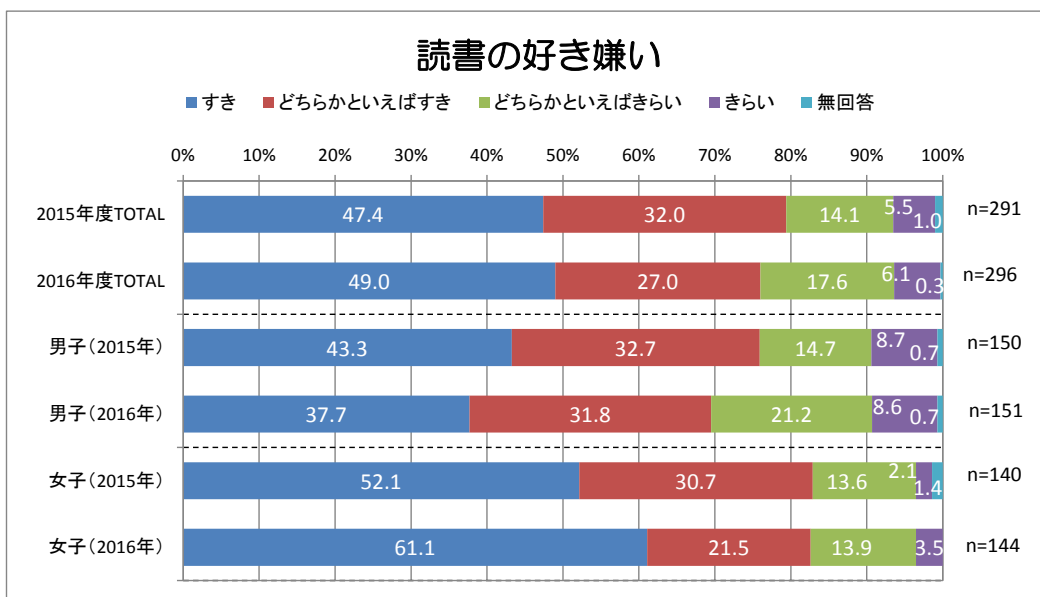
<小学生>



中学生のTOTALでは、「好き」「どちらかというとき」を合わせた『好き』の割合は、昨年度に比べ3.4ポイント減少した。

性別でみると、男子は「好き」が減少し、女子は増加している。

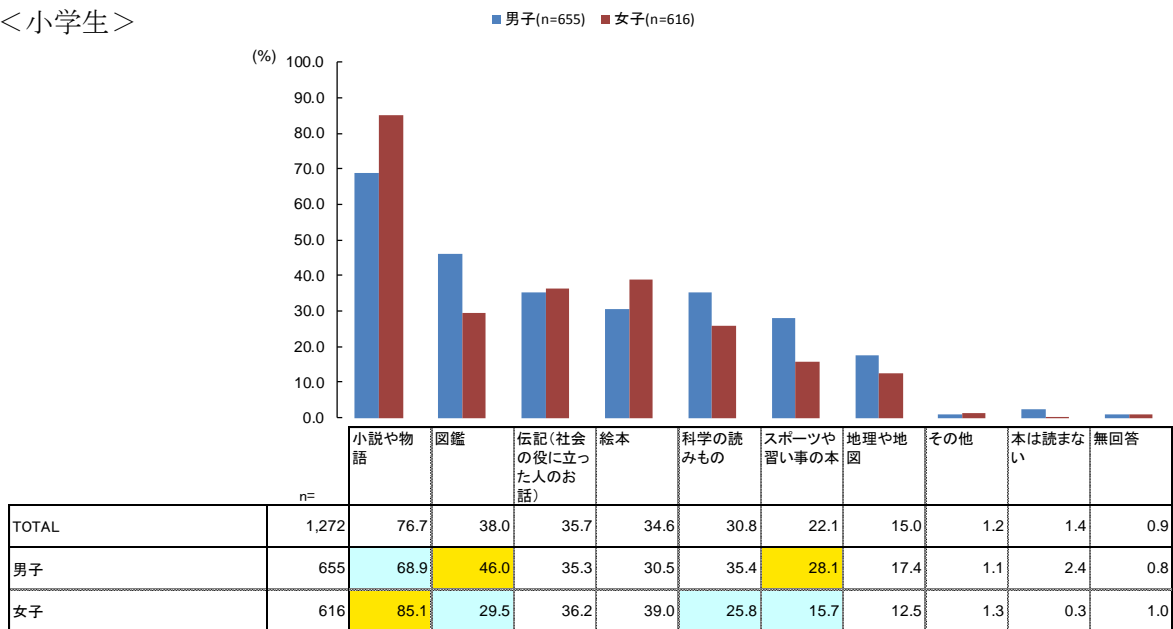
<中学生>



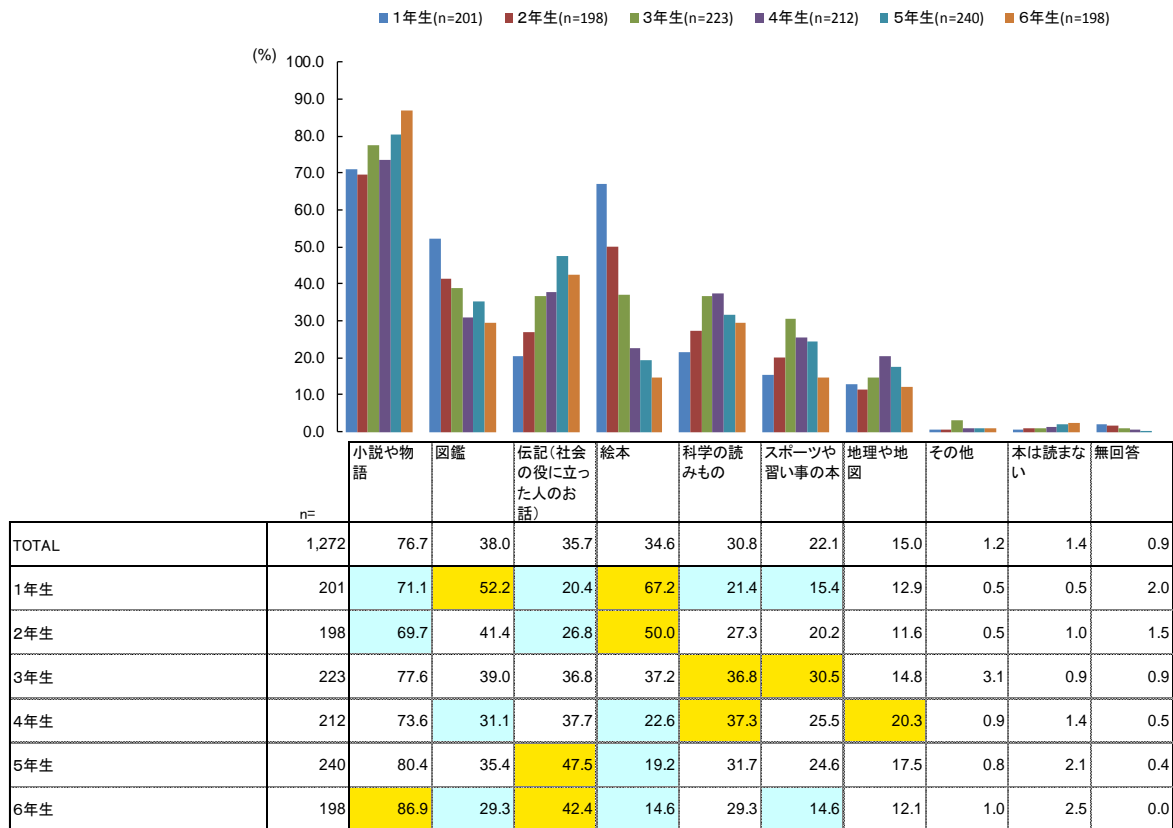
### (3) 読んでいる本の分野

小学生は、男女ともに「小説や物語」が最も高く、女子のほうが割合が高くなっている。男子は「図鑑」や「スポーツや習い事の本」が、全体より高くなっている。なお、学年が上がるにつれて、「絵本」が下がり、「伝記」が読まれる傾向が見られた。

<小学生>

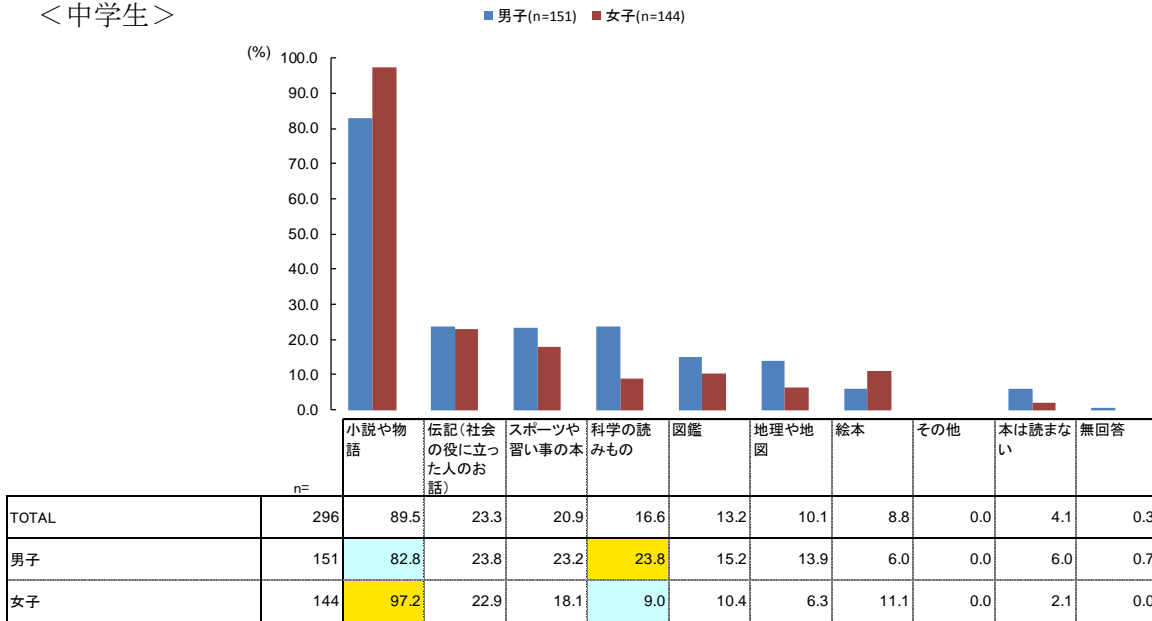


※性別無回答は非表示

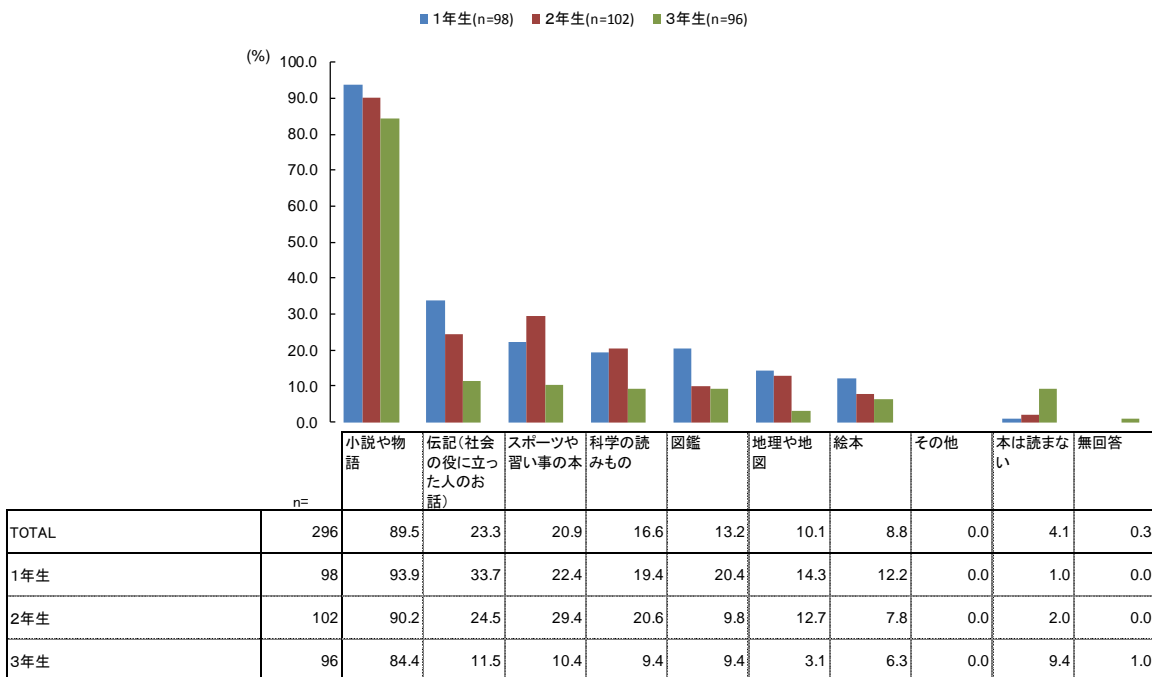


中学生でも、男女ともに「小説や物語」が最も高く、女子のほうががより高い。  
男子は「科学の読みもの」が、女子よりも高い。

<中学生>



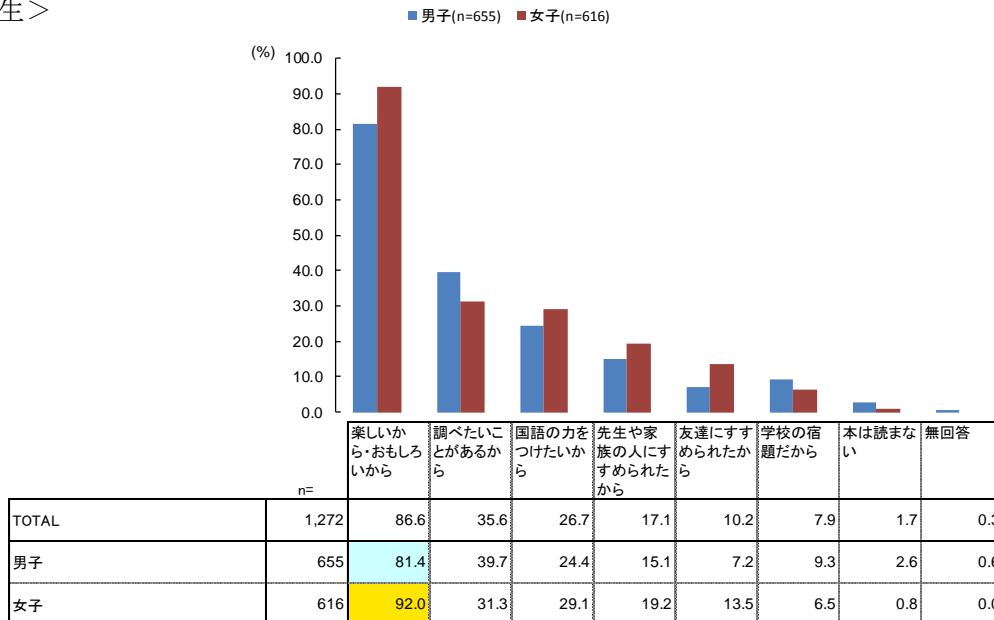
※性別無回答は非表示



#### (4) 本を読む理由

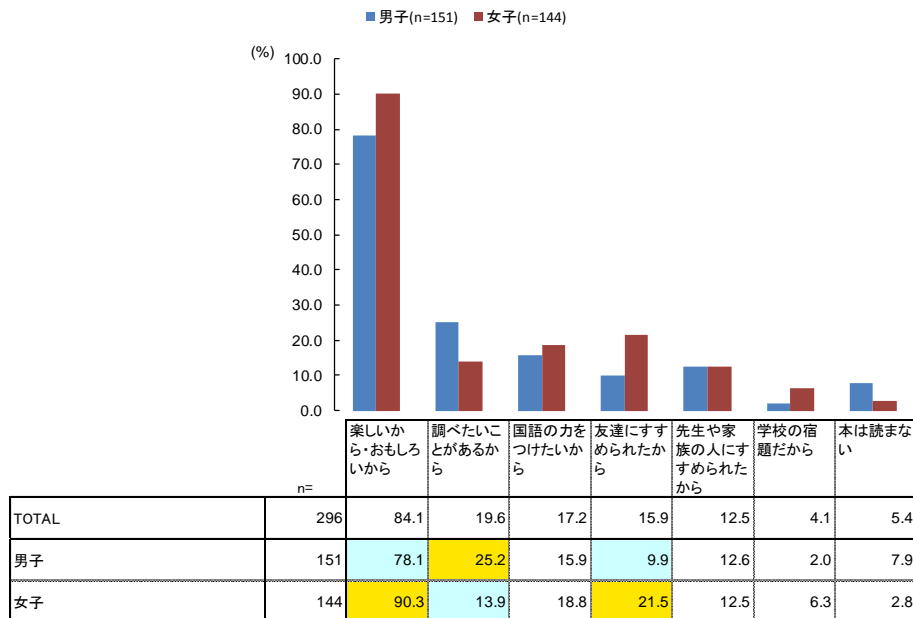
小学生、中学生ともに、「楽しいから・おもしろいから」が最も高く、男子より女子が高い。なお、中学生では、「調べたいことがあるから」は男子が高く、「友達にすすめられたから」は女子が高く、男女差が見られた。

##### <小学生>



※性別無回答は非表示

##### <中学生>



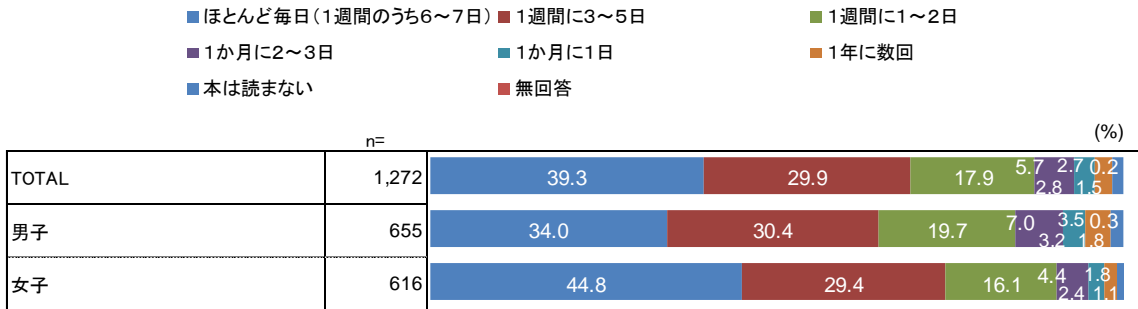
※性別無回答は非表示



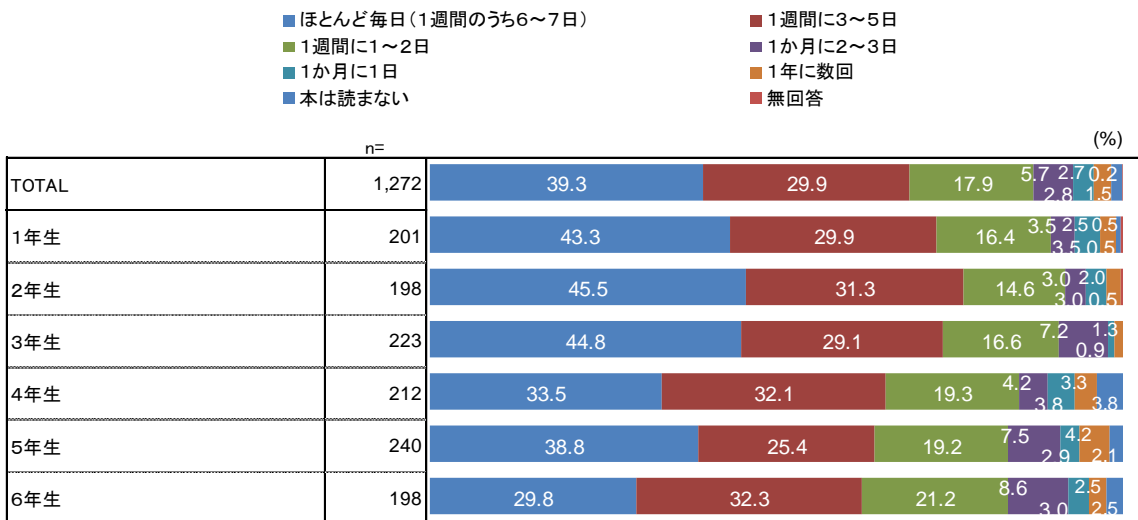
(5) 本を読む頻度

男子よりも女子の頻度が高い傾向が見られた。小学生では、6年生を除く学年で「ほとんど毎日（1週間に6～7日）」が最も高い。

<小学生>

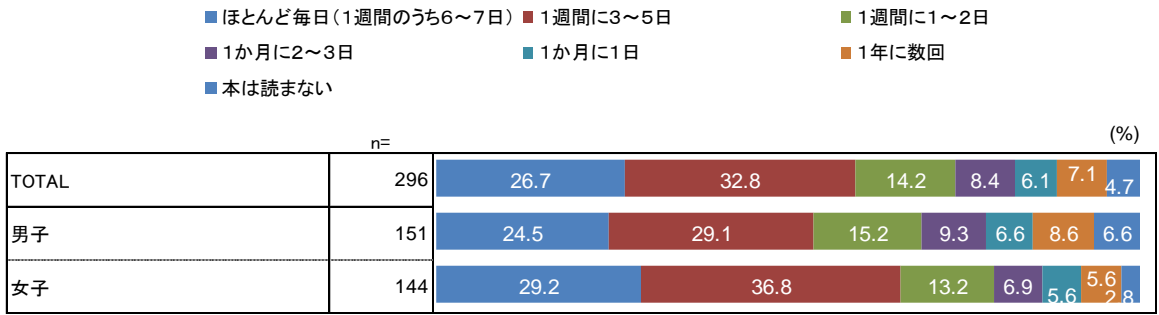


※性別無回答は非表示

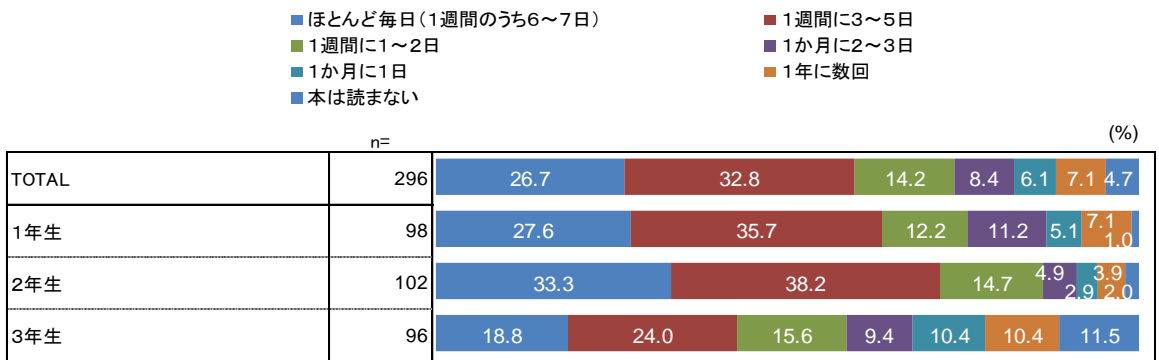


中学生では、2年生で「ほとんど毎日（1週間に6～7日）」が最も高く 33.3%となっているが、学年が上がるにつれて「本を読まない」が高い傾向が見られた。

<中学生>



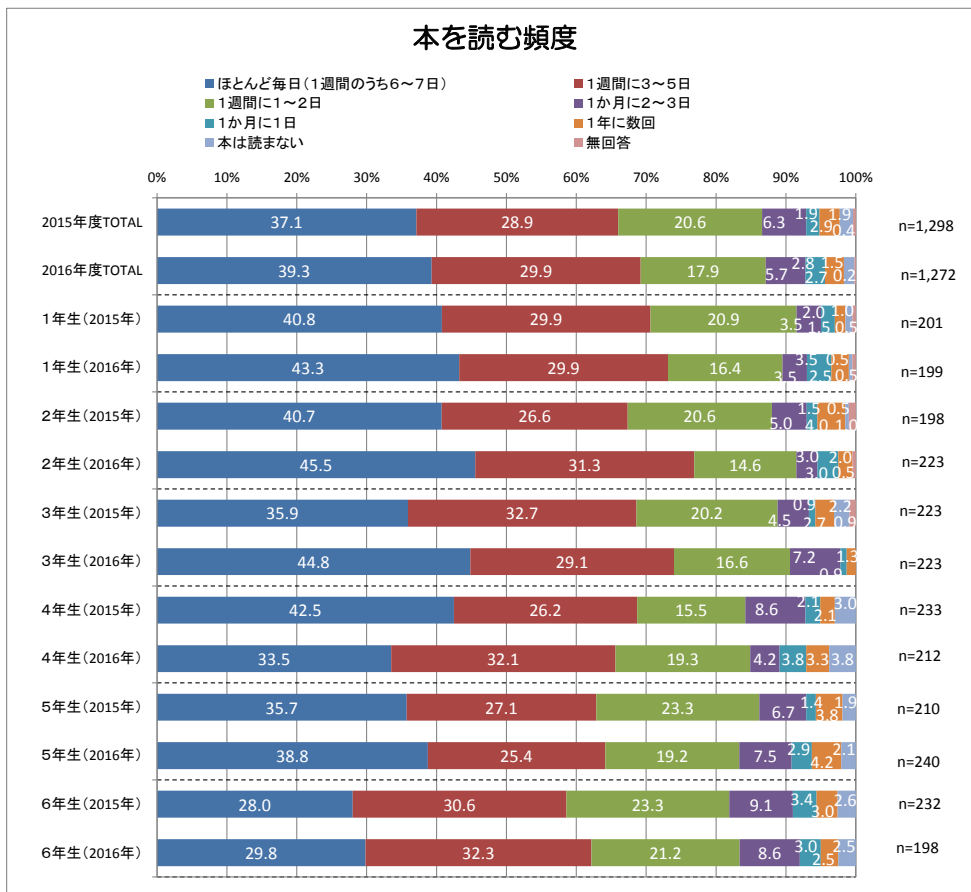
※性別無回答は非表示



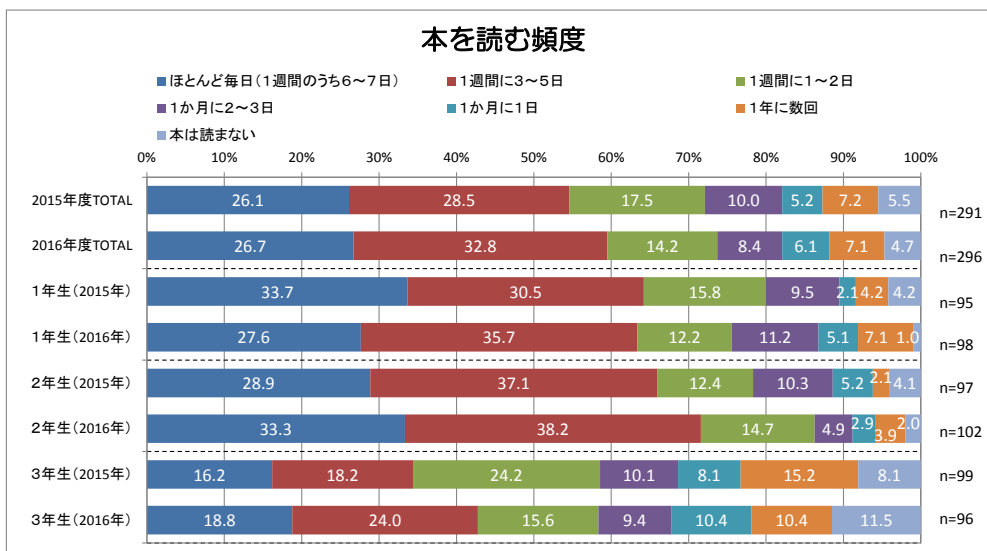
(6) 本を読む頻度 (昨年度比較)

昨年度と比較すると、「ほとんど毎日」と「1週間に3～5日」の合計が、TOTALでは小学生で3.2ポイント、中学生で4.9ポイント増加した。小学生は2、3年生で増加し、中学生は2、3年生で増加している。

<小学生>



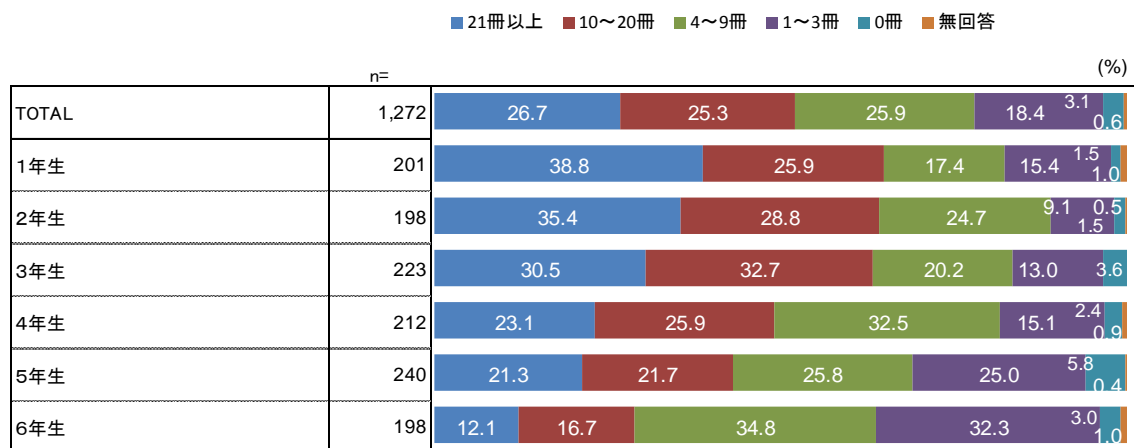
<中学生>



### (7) 前の月(10月)に読んだ冊数

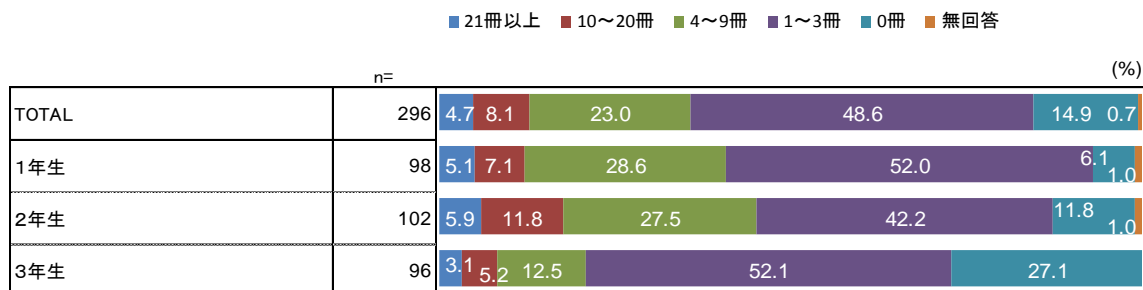
小学生では、低学年ほど読んでいる冊数が多く、1年生から3年生では「21冊以上」が3割を超えている。

#### <小学生>



中学生では、どの学年も「1~3冊」が最も高くなっている。「21冊以上」はどの学年でも1割に満たない。

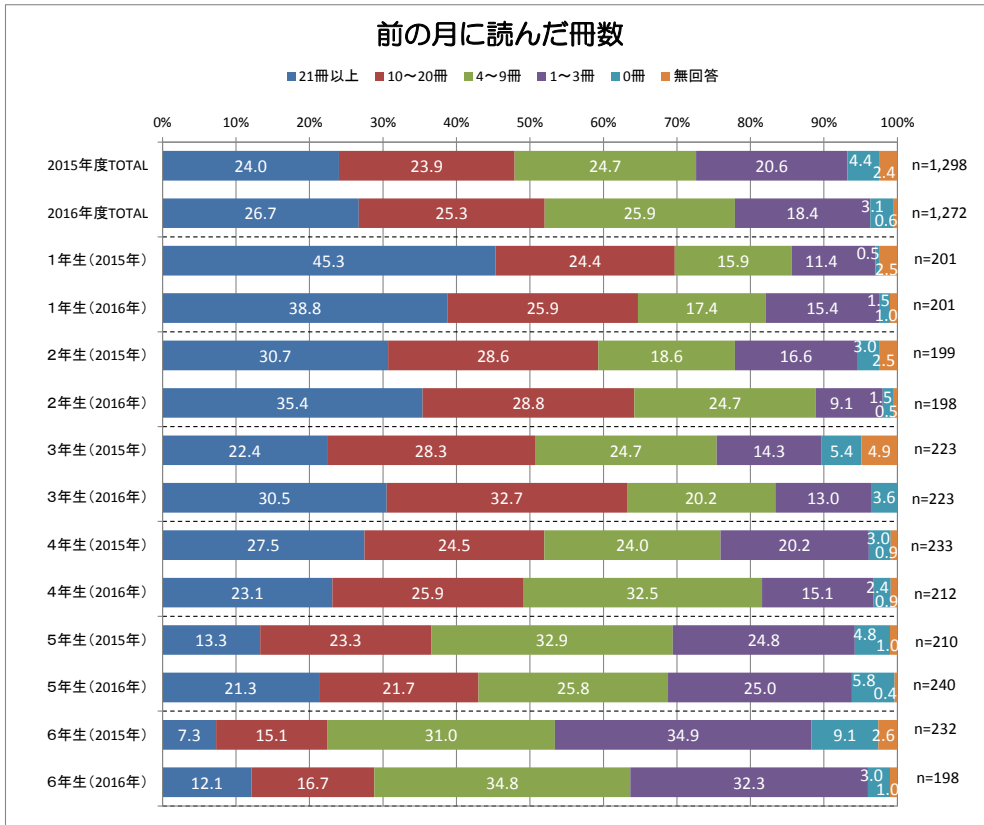
#### <中学生>



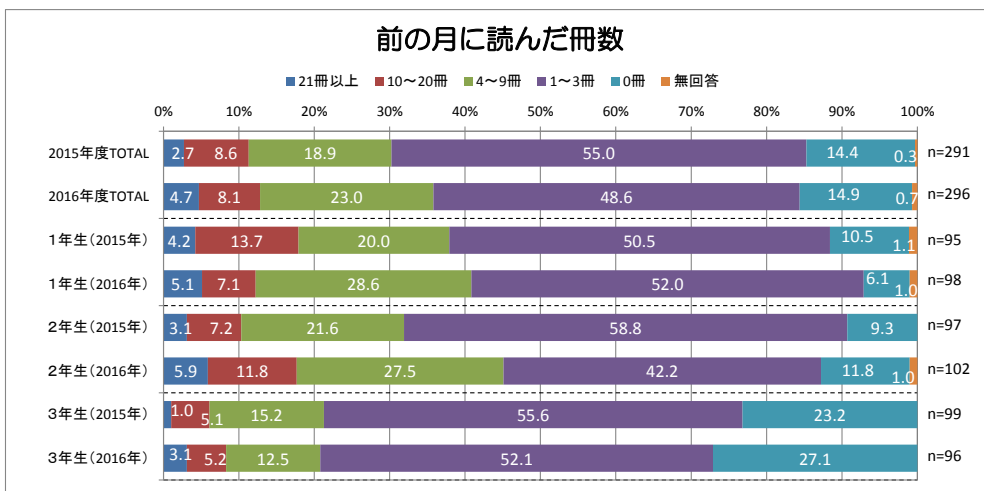
(8) 前の月(10月)に読んだ冊数(昨年度比較)

昨年度と比較すると、「21冊以上」、「10～20冊」の合計が、TOTALでは小学生で4.1ポイント、中学生で1.5ポイント増加した。小学生は1、4年生で減少したものの他の学年で増加した。中学生は「0冊」が1年生で減少したものの、2、3年生で増加している。

<小学生>



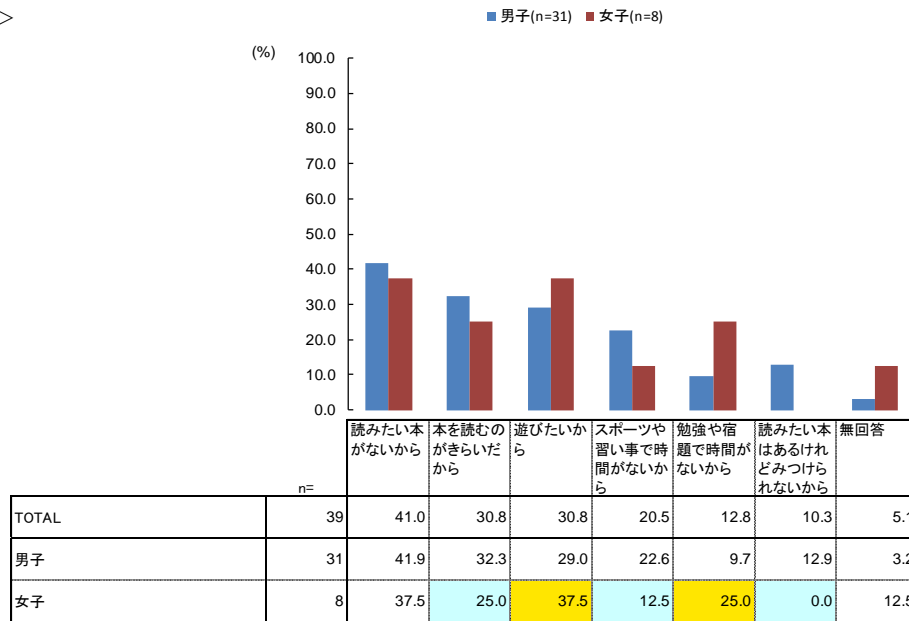
<中学生>



### (9) 本を読まない理由

ひと月に読んだ本が「0冊」との回答者に読まない理由を聞くと、小学生では「読みたい本がないから」、「本を読むのが嫌いだから」、「遊びたいから」が高くなっている。

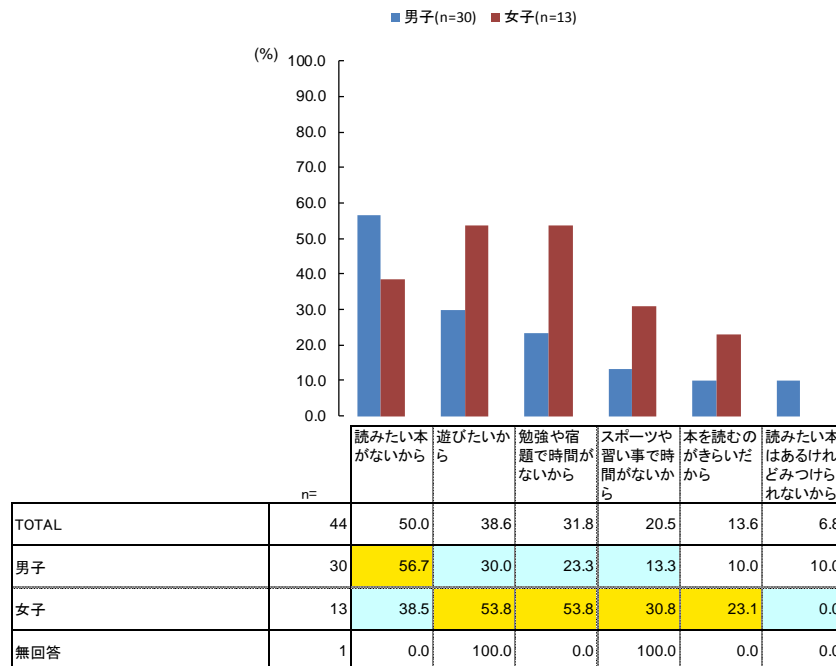
<小学生>



※性別無回答は非表示

中学生でも「読みたい本がないから」が最も高く、次に「遊びたいから」が高くなっている。

<中学生>



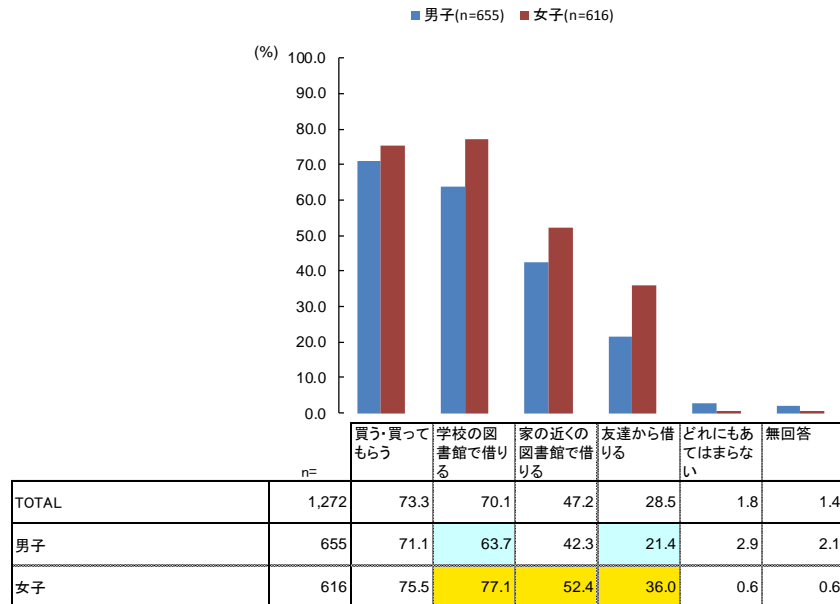
※性別無回答は非表示

## (10) 読みたい本の入手方法

小学生、中学生とも、「買う・買ってもらう」が高く、次いで「学校の図書館で借りる」、「家の近くの図書館で借りる」、「友達から借りる」となっている。

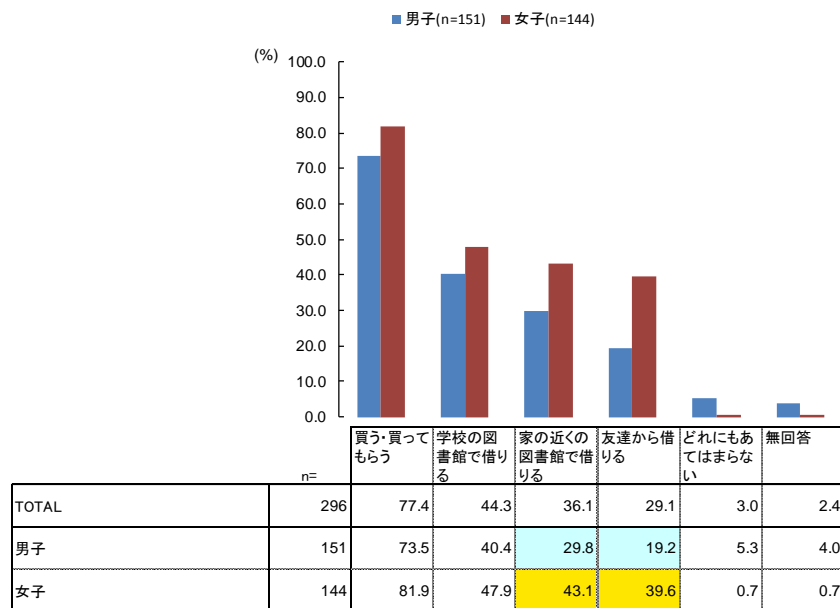
「学校の図書館で借りる」は、小学生では「買う・買ってもらう」と並び約7割と高いが、中学生では約4割と差がある。

### <小学生>



※性別無回答は非表示

### <中学生>



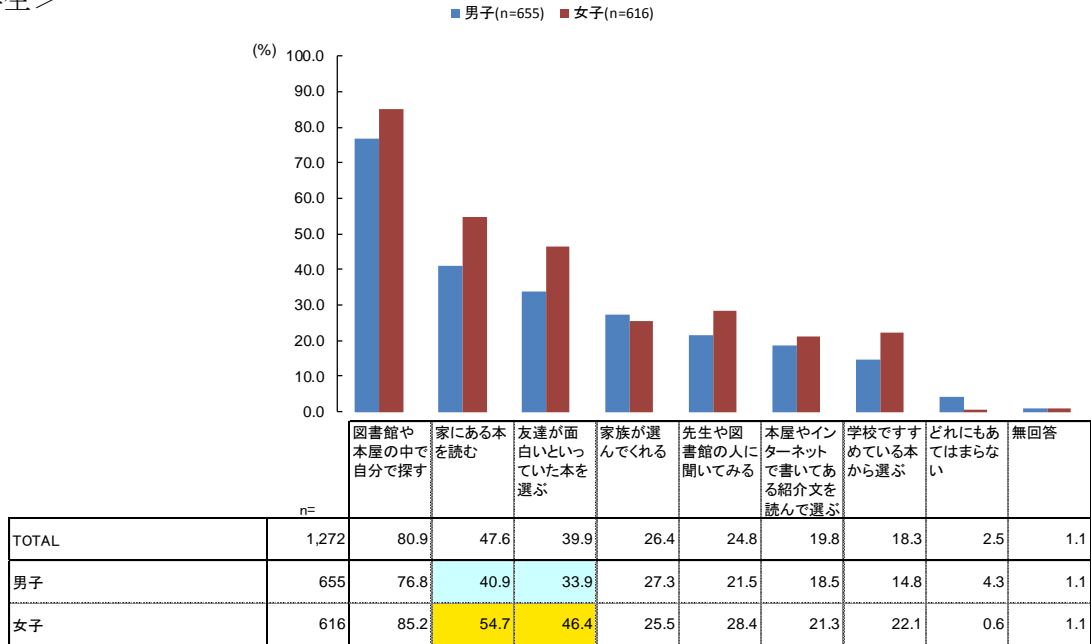
※性別無回答は非表示

## (11) 本の選び方

小学生、中学生とも、「図書館や本屋の中で自分で探す」が高い。

小学生では、「家にある本を読む」、「友達が面白いといっていた本を選ぶ」と続く。

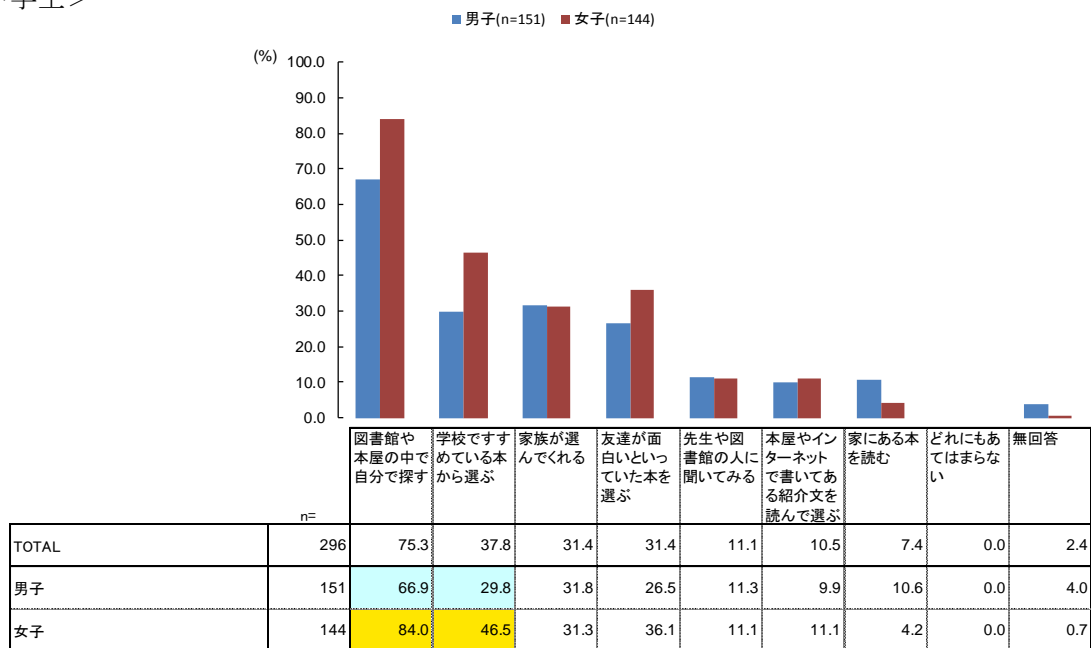
<小学生>



※性別無回答は非表示

中学生では、「図書館や本屋の中で自分で探す」に次いで、「学校ですすめている本から選ぶ」となっている。

<中学生>



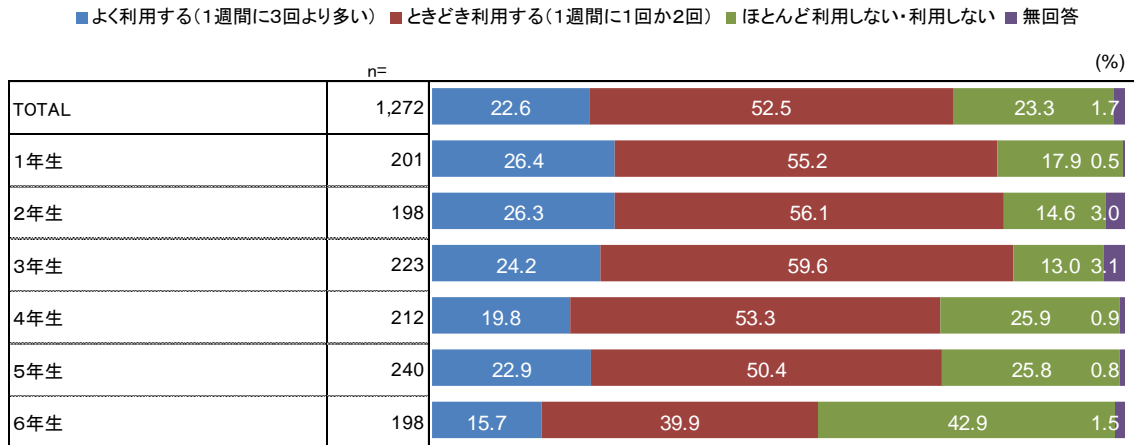
※性別無回答は非表示



## (12) 学校図書館の利用頻度

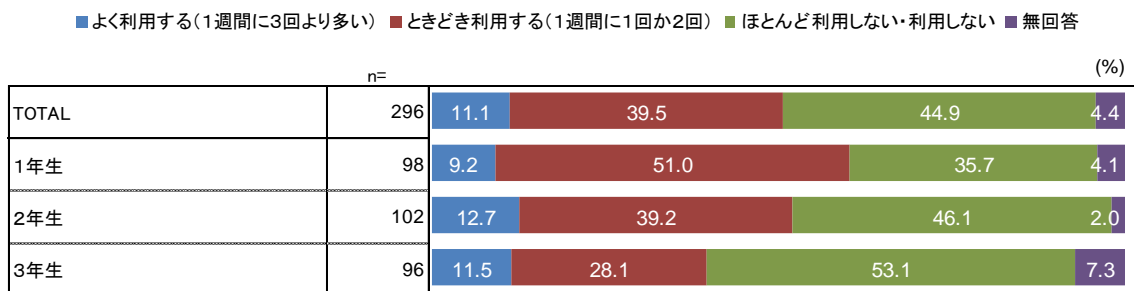
小学生では、「よく利用する（1週間に3回より多い）」が2割、「ときどき利用する（1週間に1回か2回）」が5割となっている。低学年は利用頻度が高い傾向が見られる。

<小学生>



中学生では、「ほとんど利用しない・利用しない」は4割を超え、3年生では5割を超えている。「ときどき利用する」は1年生で約5割だが、2年生では約4割、3年生では3割未満と学年ごとに減少が見られる。

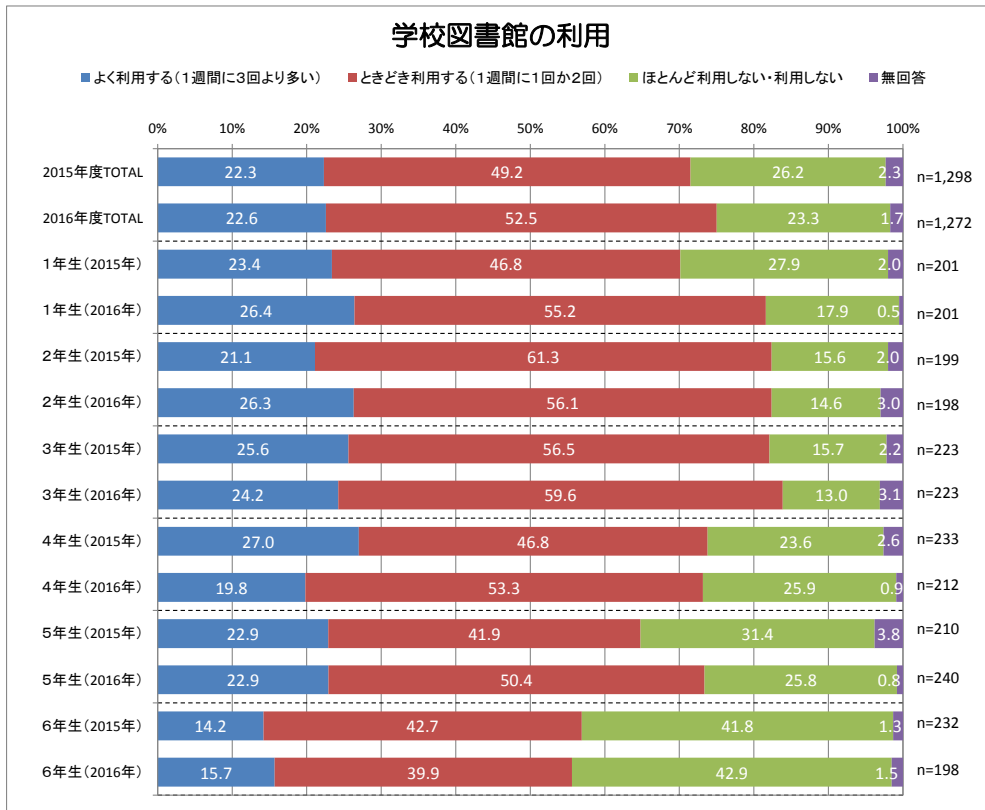
<中学生>



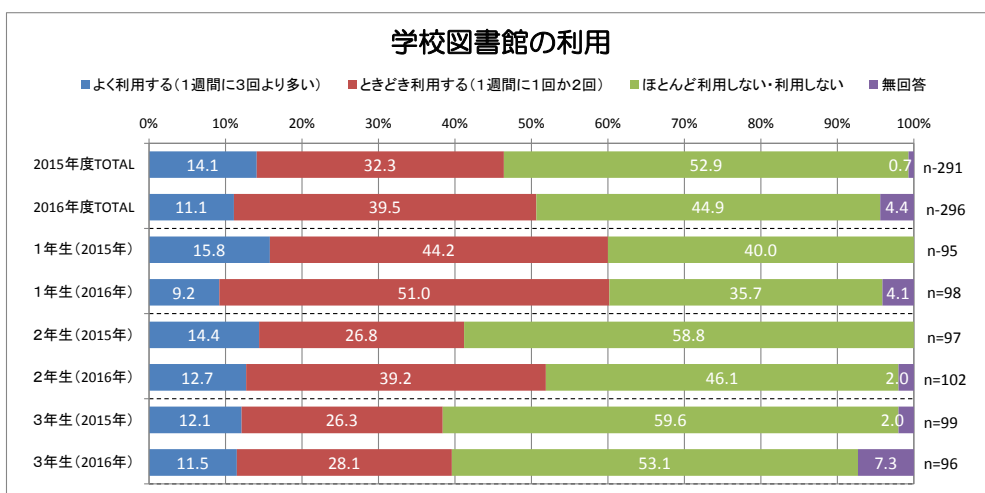
### (13) 学校図書館の利用頻度（昨年度比較）

昨年度と比較すると、「よく利用する」と「ときどき利用する」の合計が、TOTAL では小学生で3.6ポイント、中学生で4.2ポイント増加した。小学生は1、5年生で増加し、中学生は2年生で増加している。

#### <小学生>



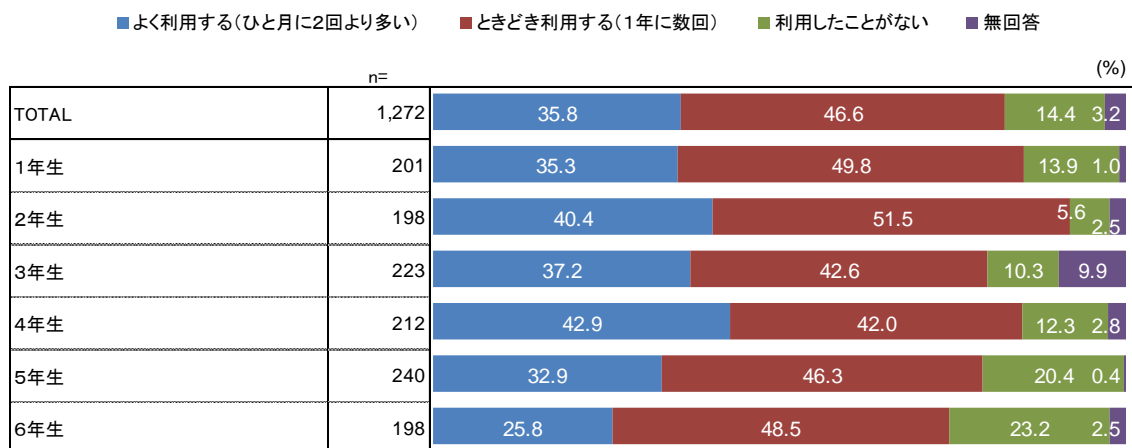
#### <中学生>



#### (14) 地域図書館の利用頻度

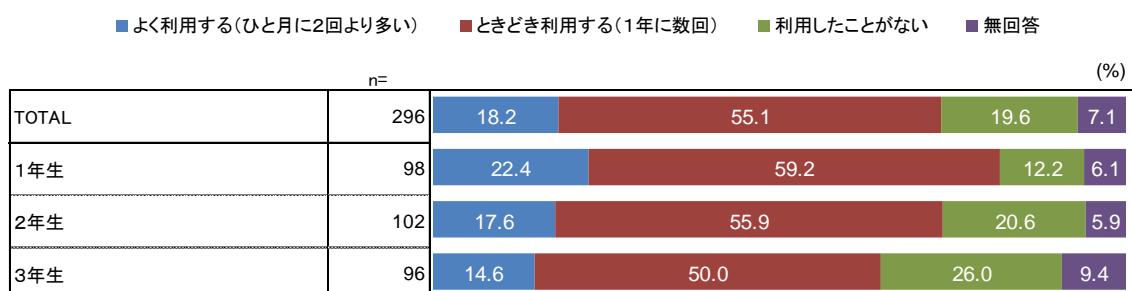
小学生では、「よく利用する」、「ときどき利用する」を合わせた『利用する』が2年生で9割を超えている。

<小学生>



中学生では、「ときどき利用する」がどの学年でも5割を超えている。

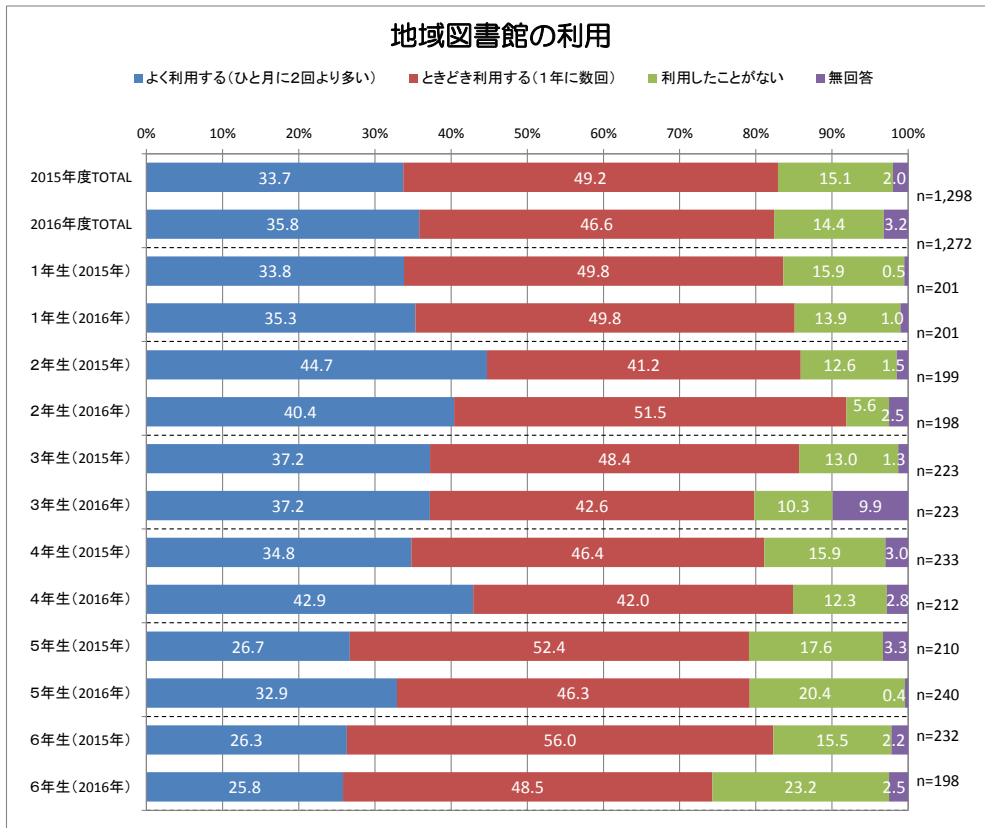
<中学生>



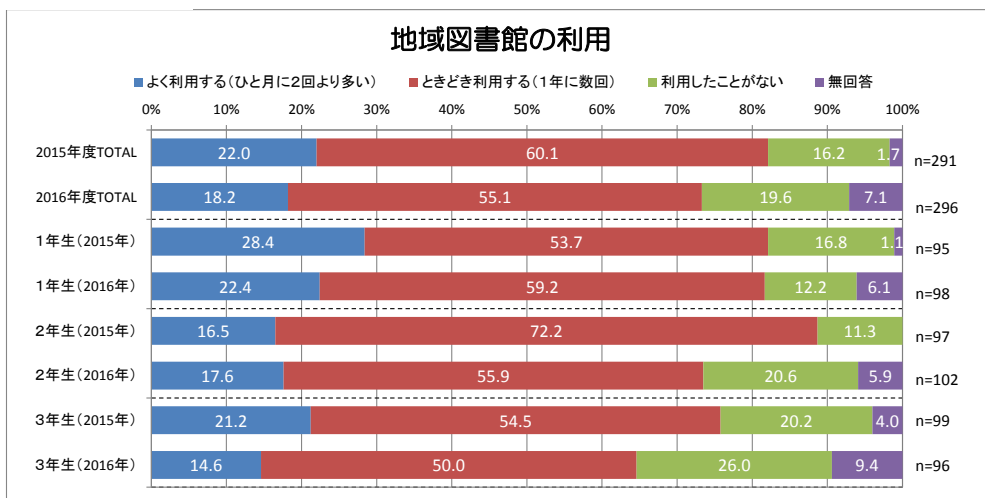
(15) 地域図書館の利用頻度（昨年度比較）

昨年度と比較すると、TOTAL では小学生はほぼ変わらないが、中学生は「よく利用する」、「ときどき利用する」を合わせた『利用する』が8.8ポイント減少している。小学生は2、4年生で増加しているものの、3、6年生では減少している。中学生は、2、3年生で減少している。

<小学生>



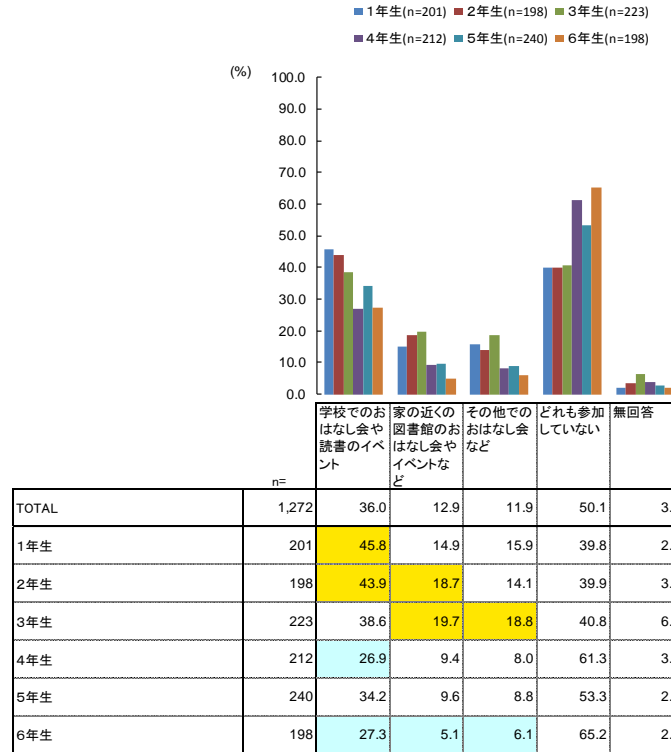
<中学生>



(16) 参加したことがある行事

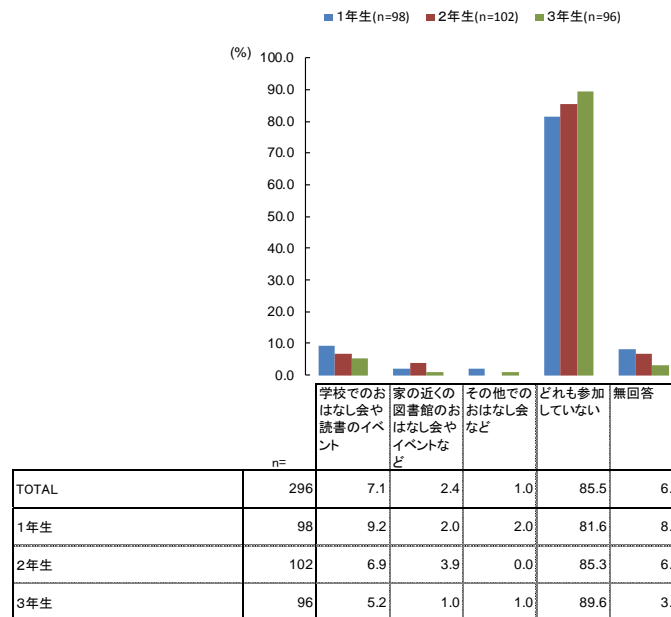
小学生では、「学校でのおはなし会や読書のイベント」は1、2年生が高く、どちらも4割を超えている。「家の近くの図書館のおはなし会やイベントなど」は2、3年生が全体より高い。

<小学生>



中学生では、「どれも参加していない」が、どの学年でも8割を超えている。

<中学生>



### 第三章 調査結果より

千代田区立小学校・中学校に通う子どもたちの読書状況を以下にまとめる。

- ・ 読書の好き嫌いについて、昨年から若干の増減はあるものの、「好き」「どちらかといえば好き」を合わせた『好き』の割合は小学生全体の89.4%、中学生全体の76%と総じて高く、男子よりも女子のほうが『好き』である。
- ・ 読む頻度は、昨年度から比較して全体で「ほとんど毎日」「1週間に3～5日」が増加、「本は読まない」の割合が減少し、本と接する機会が増えたようである。読んだ冊数も増加傾向が見られた。一方で、「0冊」の不読者の割合は、中学校2、3年生で増加が見られた。今、本に親しんでいる子どもたちはもちろんのこと、あらゆる子どもたちが本に触れるきっかけをつくる方策が求められる。
- ・ 読まない理由は、昨年度は中学生において「勉強や宿題で時間がないから」が最上位だったが、今年度は小学生、中学生ともに「読みたい本がないから」が最上位となった。時間的な制約よりも内容面での問題なのであれば、「読みたい」と思える本に出会えるための仕掛けを、周囲の大人で作ってあげることが必要と考えられる。
- ・ 本の選び方において、昨年に引き続き「学校ですすすめている本から選ぶ」が一定数いることから、おすすめ本の紹介も重要な働きかけであることがわかる。
- ・ 学校図書館の利用頻度は、小学生、中学生ともに「ほとんど利用しない・利用しない」のポイントが減少した。中でも中学生は、1年生で4.3%、2年生では12.7%、3年生では6.5%減少し、学校図書館の利用機会が増えたことがうかがえる。
- ・ 地域の図書館の利用頻度は、小学生全体では大きな変化はないものの、小学校5年生、6年生、中学校2年生、3年生で「利用したことがない」のポイントが上昇し、利用の減少が見られた。区立図書館の利用促進も今後検討の余地がある。
- ・ おはなし会や読書イベントへの参加については、小学生で一定数の参加が見られるものの、依然として割合は低い。読書のきっかけづくりとして、もっとアピールする必要がある項目と考えられる。

今回の「第2回千代田区子ども読書調査」では、現在の読書状況に加え、昨年度からの推移を見ることができた。多くの子どもたちが日頃から読書に親しんでいることがうかがえるが、昨年からの数値の増減について、連続性のある傾向なのか、単年度の現象なのかは、現段階では判断しかねる。昨年度の調査結果より、今後の注力ポイントととらえていた中学校における学校図書館の利用については、今年度若干の増加が見られた。学校の授業や校内イベントとの関係性に今後も注目し、継続して変化を追っていくことで有効な働きかけを探っていきたい。学校と学校支援担当司書、また千代田区読書振興センターが連携し、子どもたちへ届ける情報の充実と、積極的な発信、本と触れ合う機会創出に努めていく。